



物流情報の専門紙

# カーゴニュース

http://www.cargo-news.co.jp info@cargo-news.co.jp sales@cargo-news.co.jp

毎週火・木曜日発行

本社 株式会社 **カーゴ・ジャパン**  
 発行所 東京都港区六本木4の5の10  
 郵便番号 106-0032  
 電話 03(5771)2101  
 F A X 03(5771)2100  
 発行人 西村 亘  
 購読料 6ヵ月 30,000円(送料込、)  
 1ヵ年 54,000円(消費税別)  
 郵便振替口座 00160-1-106892  
 銀行振込 三菱UFJ銀行六本木(普)0012383  
 みずほ銀行六本木(普)1082206  
 (株)カーゴ・ジャパン

## 物流ソリューション 自在化。最適化。

その物流に、  
ジャストソリューション。



トヨタL&F  
公式ホームページ  
www.toyota-lf.com

豊田自動織機

### 特別編集企画

『企業ロジスティクス特集』

## 『ウィズコロナ』時代の企業ロジスティクス

- ◇ 巻頭レポート 今後、物流子会社の再編が加速  
コロナ禍によるSC再編でM&Aが再び増加? …… 13
- ◇ 調査レポート 19年度「大手荷主の物流コスト調査」  
…… 14
- ◇ レポート 荷主の5割超がパレット利用を推進  
…… 18
- ◇ 行政インタビュー ポストコロナ見据え「ピンチをチャンスに」  
国土交通省 公共交通・物流政策審議官 久保田雅晴氏 …… 20
- ◇ ワイドインタビュー 物流子会社トップに事業戦略を聞く…… 31
  - ▽ 紀文フレッシュシステム社長 藤田正人氏 …… 31
  - ▽ サッポログループ物流社長 西間木健二氏 …… 35
  - ▽ 全農物流社長 寺田純一氏 …… 39
  - ▽ 帝人物流社長 松下豊氏 …… 43
  - ▽ 東洋メビウス社長 篠山健司氏 …… 46
  - ▽ 日本瓦斯運輸整備社長執行役員 寺田二三男氏 …… 50
  - ▽ ホームロジスティクス社長 柳川弘之氏 …… 54
  - ▽ ワコール流通社長 小谷淳氏 …… 58
- ◇ レポート 荷主団体に聞く、業界別、物流最新動向  
…… 67
  - ▽ JAFIC▽日食協▽日本ガラスびん協会 …… 67
  - ▽ JADMA▽日本電線工業会 …… 67
- ◇ レポート わが社のイチ押し、改善事例  
…… 78
  - ▽ アサヒロジ▽キリンググループロジスティクス …… 78
  - ▽ シーエックスカーゴ▽山村ロジスティクス …… 78
- ◇ レポート 異業種間大連合で物流DXが加速  
…… 84
- ◇ 物流関連子会社(荷主系の物流会社)一覧  
…… 87

## 山村ロジステイクス

(茨木営業所 Tttttサークル)

# アパレル集品作業の生産性を向上

## データ活用しピッキング方法を改善

日本山村硝子グループで物流の外販事業に特化する山村ロジステイクス(本社・兵庫県尼崎市、阪口明社長)は営業所ごとに改善チームを組織し、各チームの改善活動の成果は年2回、春と秋に開催する発表会を通じて発表するなど、改善活動の定着化・浸透化を推進している。

今春の大会で最優秀賞に輝いた「茨木営業所Tttttサークル」は、前回大会でも最優秀賞に選ばれたチームで、2年連続の受賞を達成し、日本山村硝子のQCサークル大会でもフレッシュ賞を獲得した。今回の取り組みは、「目標を着実に達成し、攻めどころの着眼点もよく、顧客を巻き込んだ活動となった点」が高く評価された。

茨木営業所(大阪府茨木市)は大手アパレル企業の庫内業務を3年前より受託している。今春、最優秀賞を受賞した改善事例は、同営業所の4S(4階南)フロアで行うアパレル製品のピッキングのうち、単色1サイズのみのカートンで入荷される「ソリッド品」の春夏物を対象とした作業の見直し。同作業の生産性は、作業員1人による1時間当たり(MH)の集品(タッチ)数が目標に達しておらず、単価改定から目標値を引き上げる必要性も生じたことで、改善に着手した。

まず、改善施策を明確化するために春夏物の作業生産性をデータで確認したところ、目標である103タッチ/MHを実現するには、1ヵ月当たり平均646・61工数、1日当たり21工数の削減が必要になると試算された。また、19年春夏物のソリッド品作業における工程別MHの内訳を調べると、集品が62%を占めるとともに、1日の出荷オーダーのうち生産性が落ちる10タッチ以下のものが15%を占めることが分かった。

実際に、作業者ごとの実績を見て少量タッチの出荷オーダーが多い作業者は生産性が低下。分析の結果、ロケーション移動のための歩行に時間を取られていることが、要因のひとつにあることが分かった。そこで、歩行時間が長くなってしまいう少量オーダーの作業効率改善に取り掛かることとした。



マルチカートによるピッキング

少量オーダーの生産性向上へGASを有効活用

ソリッド品は通常、マルチカートを使用した摘み取り式で集品され、単品大量の商品のみGAS(ゲートアソートシステム)を用いて種まき式に仕分けされている。改善施策では、摘み取り式による集品のうち、少量オーダー品をトータルピッキング方式へ移行。具体的には1店舗当たり30ピース以下の出荷オーダーをトータルピッキングし、店舗仕分けはGASを使用することで、GASの稼働率向上にもつなげることにした。

結果を試算したところ、少量オーダー品の場合、マルチカートでピッキングした際の1日当たりの必要工数が21・37であったが、トータルピッキングとGASの運用で12・4まで削減できることがわかった。さらに、少量オーダー以外のピッキング作業と併せた生産性も、改善前の必要工数が1日当たり91・97だったことに対し、改善後は70・52まで削減。1日あたり21・45工数減らせることとなり、目標である「21工数



GASでの仕分け作業

の削減」が達成でき、「103  
タッチ/MH」も実現できる見  
通しとなった。

実運用に当たっては生産性を  
さらに高める様々な策も施し  
た。たとえば、トータルピッキ  
ングが一度の集品で完結するよ  
う、ピッキングリストの情報を  
もとにキャリーを連結させ、数  
量に合う箱数を用意。箱への投  
入も同色の商品同士にならない  
よう注意し、GASでの仕分け  
時に見分けやすいよう工夫し  
た。また、トータルピッキング  
作業も、マルチカートやGAS  
と同様に集品目標値を設定。早



トータルピッキングを採用

見表を作成して庫内に掲示する  
ことで、設定時間内で終わらせ  
る意識付けも行った。

これらに併せ、登録商品数が  
増加していたことからロケシ  
ョンも見直し、前年にはなかつ  
た「上部の高さを活かす」配置  
とすることで動線を短縮。A回  
転品はネステナ、B回転品には  
ドローリを用い、C回転品につ  
いてはオリコンを工夫して使用  
するほか、新たに「ウサギ箱」  
「イヌ箱」と呼ばれる箱も特注  
で作成した。

一連の改善施策の結果、生産  
性は平均111・3/MHまで



イヌ箱（奥）とウサギ箱（手前）

向上し、改善前の88・1から  
23・2pt上昇。1日当たりの工数  
は62・20の削減に成功した。

トータルピッキングへの移行  
に当たっては、システム運用に  
おいて、荷主である三井物産グ  
ローバルロジステイクス社の協  
力を得られたことも成功につな  
がったという。今後は秋冬物へ  
の対応を検討するとともに、  
「仕分けの自動化が全国で進む  
中、我々としても時代に乗り遅  
れないよう、何が必要とされ、何  
が提案できるのか考えていきたく  
い」と石田翔平所長は話す。



左から昆英雄主任、伏田総司主任、石田所長